

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

6月上旬、猛暑が続いた。長野気象台は、6月上旬に猛暑日を観測するのは長野が大正5年以来104年ぶりだと発表した。新型コ

ロナウイルス感染予防のためのマスク着用には熱がこもるなど辛く、本番の夏には熱中症の多発が心配される。長野県内でも感染が終息しつつあるとして、19日から首都圏4都県や北海道との往来が原則自由になる。だが人の往来が増える新たな感染者が出るかもしれないと心配する人の声も聞こえてくる。一日も早くワクチンが普及する事を願うばかりだ。

6月中旬、長野県長寿社会開発センター大北支部白馬・小谷グループが企画した特別養護老人ホーム「白嶺」施設へのボランティアに参加する。小雨の中、各自持ち寄った草刈機が久し振りの共同作業を讃える歌のように賑やかな音を響かせた。施設入所者とは感染予防で直接話はずきなかったが、窓越し

活動・大北地域の皆さんとの交流事業を通してどの様な豊かな生活方ができるか楽しみだ。今回「白嶺」を訪問して改めて施設スタッフの感染予防への対応は大変なのだろうと感

る人の心の優しさだ。単に施設運営に協力するとの意識ではなく、地域に住む一人一人と人間的なつながりを大切にしたいと思いが強く伝わってくる。地域では一人では生きて行く事ができない。人との

絆が大切と思いつける人が多い地域が、心から楽しみなから任せてみたいと思わせる大切な故郷になつて行くのだろう。子どもに人の道を説いた教訓書「実語教」の一節に「山高き故に賣からず、樹あるをもって賣しとなす。人は新鮮だ

地域に住みながら何ができるか考える事が大切だ

肥えたるが故に賣からず、知恵あるをもつて賣しとなす。山に樹木、人に知恵。どんなに見た目が立派でも中身が伴わなければ意味がない。外見より実質との教えだ。子どもだけでなく、高齢期を迎えても自分を磨き..... 総会は3密を避けて屋外で。新生活様式の体験は会員には新鮮だ

